

研究課題名（和文）	安全・安心・満足に資する高齢者支援技術 -高齢者と介護関係者をつなぐデジタル-ヒューマンネットワークの構築
研究課題名（英文）	Meaningful Technology for Seniors: Safety, Comfort and Joy (METESE) -Models of Digital and Human Networks
研究代表者氏名	渡辺 健太郎
研究代表者所属・役職	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター サービスインテリジェンス研究チーム 研究員

【研究実施の概要】

H27年度は、主に日本・フィンランドの介護・高齢者支援サービスと介護・高齢者支援機器活用（ICT・ロボット等）の実態調査を行った。介護・高齢者支援サービスは、行政、サービス事業者、介護スタッフ、サービス利用者、その家族等、多様な利害関係者が関わり合って提供されている。これらの関係者の観点を踏まえ、介護・高齢者支援サービス全体の現状を理解すべく、まず文献調査を通じた、国内の介護・高齢者支援サービスの内容とその構造、プロセスの分析を行った。また、自治体の介護保険担当職員、サービス事業者に対するインタビューを実施し、介護・高齢者支援サービスに対する自治体・サービス事業者の役割とその取り組みの違いを把握した。さらに、介護の経験がある高齢者、及び経験がない高齢者に対して、介護・高齢者支援サービス、支援機器に対する期待やニーズ、課題についてインタビュー調査を行った。その結果に基づき、介護の経験がある高齢者、及び経験がない高齢者、介護スタッフに対して、より幅広く介護・高齢者支援サービスや支援機器に関するインターネットアンケート調査を行い、それぞれの立場、役割に基づく、将来の介護に対する希望や、介護支援機器の利用に対する意識を明らかにした。

フィンランドに関しては、フィンランド国内の介護施設の現地視察、及びフィンランドの介護・高齢者支援に関する文献調査を現地研究者と連携して行い、フィンランドにおける介護・高齢者支援サービスの内容や構造、実態の調査を行い、日本との違いの分析を行った。次年度以降、さらにフィンランドの介護・高齢者支援サービスの現状調査と比較分析を進める。

具体的な研究交流として、日本・フィンランド双方でプロジェクトミーティングを各1回実施した他、本プロジェクトのテーマである、高齢者支援技術に関する国際ワークショップ HAT-MASH2015 を国内で開催し、日本・フィンランドのプロジェクトメンバーをはじめ、国内外の研究者・サービス事業者・介護関連機器メーカー、自治体職員等を交え、本研究分野に関する講演、及びディスカッションを行った。また、フィンランド VTT の研究員を1名、3ヶ月間客員研究員として産総研に受け入れ、共同して国内のサービス事業者、及び日本・フィンランドの介護制度の調査を実施した。